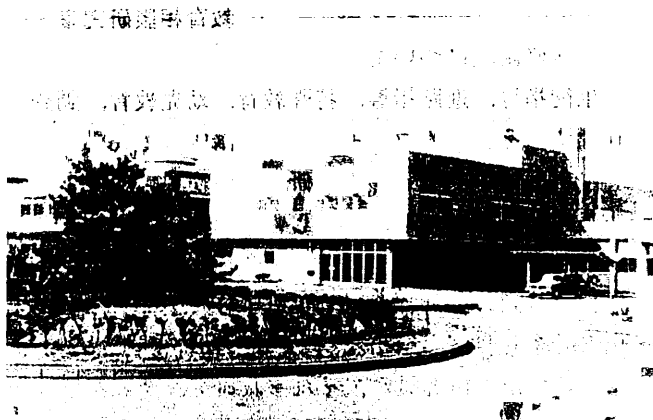


# 教育センターだより

第25号 (昭和55年6月)



本年は1980年代の幕あけの年にあたるとともに、教育センターにとっても創設10年を経過して11年目にふみだした記念すべき年であります。過去10年間本センターが県教育の充実発展に果たした役割は高く評価されておりますが、これもひとえに関係各位がおよせくださったご理解とご援助の賜物であり、歴代の所長および所員の研鑽の成果と存じます。

我が国の教育は明治以来先人の尊い努力により、その普及はめざましく、その結果として優秀な頭脳と勤勉さによって第二次大戦後四分の一世紀を経た70年代は科学技術の急速な進歩とあいまって、未曾有の経済の繁栄をもたらしました。その結果物質的には豊かになりましたが、一方人間の心や精神の面では荒廃と退廃がめだってまいりました。

70年代の教育は、これらの変化に対応するため、その目標を修正しつつ進んできたように思えます。しかし「落ちこぼれ論」さらに「非行問題」等々厳しい世論のなかにあつて、子どもは心を痛め互いに努力を続けてまいりましたが、現状は少しも好転しないまま80年代に突入してしまいました。経済の面でも高度成長

から低成長に入りました今日、こうした流れを根本的に再検討して80年代の新しい教育を創りだすことが求められております。いわゆる「ゆとりあるしかも充実した学校生活」の実現をめざして教育課程の基準の改善も行われ、その実施にも入りましたが、「子どもたちに考えるゆとりを与える」そして「おとなになったとき創造的な考え方が発揮できるようにする」とはいつているが、具体的には学校教育をどのように改善したらよいか明確でないため、実践するにあたって最も悩みが深いものと思ひます。

新しい学習指導要領にもとづく新教育課程による教育が小学校では、すでにスタートいたしました。本教育センターとしては、過疎と核家族の進むなかで、県民の求める「心の豊かさ」や「生きがい」等の精神的な充実を図る学校教育の具体策を模索しながら、21世紀をになう児童・生徒の育成をめざして過去10年間の諸事業を総点検いたしたいと考えております。そして新しい視点にたつと同時に所員各自が「心にゆとり」をもって新しい発想にもとづいての研修・研究・奉仕およびその他の事業の一層の充実強化に努めなくてはならないと思ひます。そして本県教育の一層の充実振興を図るべく努力する覚悟でありますので、今後とも関係各方面のご理解とお力添えがありますよう切にお願いいたします。

諸事業を総点検いたしたいと考えております。そして新しい視点にたつと同時に所員各自が「心にゆとり」をもって新しい発想にもとづいての研修・研究・奉仕およびその他の事業の一層の充実強化に努めなくてはならないと思ひます。そして本県教育の一層の充実振興を図るべく努力する覚悟でありますので、今後とも関係各方面のご理解とお力添えがありますよう切にお願いいたします。

80年代の教育と教育センター
—10周年を迎えての抱負
所長 佐藤久

## 目次

80年代の教育とセンター10周年を迎えての抱負	1
各研究室の抱負と構想	
経営研究室	2
教科研究室	2
教育相談研究室	2
教育工学研究室	2
理科研究室	3
技術家庭研究室	3
教育研究法委員会による活動と方針	3
研修員とテーマ紹介	4
県内教育研究機関協議会	5
随時研修	5
告知板	6

## 各研究室の抱負と構想

ゆとりある充実した学校生活を  
実現するための学校を求めて

経営研究室

教育課程基準改善の趣旨を再確認し、それを教育経営に生かす各学校の主体的な取り組みがみられる。当室で担当する学校経営、学年・学級経営、学校評価等の研修講座では、全県的なこのような動向を基盤に、より望ましい方向をさぐり、改善の方策について研修する。

新規採用教員を対象とする教職教養研修講座は、校種別にし、前・後期を通じて、教職についての基本的な内容をじっくり研修するよう計画している。

また、経験五年後の教員を対象とする教育方法研修講座は、学級経営、生徒指導、学習指導、授業研究の四分野をセットし、演習の機会を取り入れながら、より専門的な研修を積むよう計画している。

さらに事務職員も新規採用者と一般事務職員に分け経験に適合して研修できるようにしている。

なお「学校経営の改善に関する研究」の一貫として本年度は「高等学校における学年経営と学年主任の機能」について明らかにしたい。

未開拓な分野の指導資料の作成を

教科研究室

新学習指導要領の趣旨と強調点を生かした学習指導の実践展開に寄与する講座運営に留意していきたい。国語、社会、算数・数学、音楽、図工・美術、英語の各教科における講座内容を質的に向上させるため、本年度は特に、専門領域で著名な中央講師を招き、その内容の専門化を深める一方、現場の学習指導に活用できる講座資料の整備に努力していきたい。

また、当室で作成刊行する資料として、『郷土教育資料』とへき地教育関係の『複式学習指導資料』があるが、両者とも全国的にみても未開拓な分野となっている領域の研究に着手するので紹介したい。

郷土教育資料としては、本年度から二か年継続事業として、本県の郷土民謡やわらべ唄などの郷土の音楽の教材化を企図した『音楽編(仮称)』作成のための研究に着手している。へき地教育振興のため、前年度の『算数編』に続いて、現段階では資料不足な社会科分野を本年度は取り上げ、『複式学級の学習指導 社会編』を年内に作成刊行する予定で研究を推進している。

「子供とともに」をモットーに

教育相談研究室

○研修講座について

生徒指導、進路指導、特殊教育、幼児教育、調査・検査法、それにカウンセリングと講座数で16講座です。

今年はカウンセリングの研修希望が特に多くなって担当の熊谷指導主事はうれしい悲鳴をあげている。

○研究について

「音声言語のよりよい成立に関する諸条件」について山田指導主事が、「自閉的傾向を持つ精神薄弱児の指導」について出川研究員が、それぞれ研究、発表を行う予定。

○教育相談について

54年度の全受理数は343人で、延人数では2,786人となっている。受理数の多い方から、情緒の問題が58.6%、知能、学習の問題が18.7%、社会適応に関するもの11.1%などとなっている。今年からメンバーになった藤村指導主事、木村ひな子研究員、連日がんばっている。子どもを見捨ててはいけない、カウンセラーは楽天的でなければ、をモットーに。

個を生かす、教授＝学習システムの開発へ

教育工学研究室

教育工学研究室には、2年ごとに2年研修の新しい研究員が入ってくるシステムがある。本年が丁度、その年に当たり、田村・熊谷両研究員が現場に戻られた後に、大曲中学校より加藤尚教諭、山王中学校より齋藤善博教諭がそれぞれ研究員として派遣されてきた。

更に、5月からは、5カ月研修員として、花輪第二中学校より鈴木廣司教諭が入室、それぞれ、教育課程の改訂に伴い、教育現場で目を閉じては通られない「一人ひとりの子に確かなる学力」また、「生涯に通ずる学習能力」の習得のための教授＝学習システムの研究と教材開発に連日取り組んでいる。

教育工学研究室開設以来一貫した研究の基本は、新指導要領の基本理念と同じく、人間尊重の教育の推進学習者の身になっての教授＝学習システムの構築である。本年度は小学校の新指導要領完全実施の年、明年以降は中・高等学校と順次、完全実施を迎えるに当たって、一段とこの研究に拍車をかけ、まい進しなければならないと念じている。

### 新学習指導要領の趣旨の具現化を めざした研修・研究を

#### 理 科 研 究 室

児童・生徒により多くの直接経験をさせ、それらを通して・自然を調べる能力や態度を育てる・基礎的・基本的な事項を理解・定着させる・科学的な思考力や創造性を高めるにはどうしたらよいかを主眼に研修・研究を進め、その成果を研修講座や研修集録・研究紀要・実験観察カード（中学校教材編第7集）等で具体的に示していきたい。

研修講座においては、小・中・高共に積極的に野外観察や製作活動等を取り上げると共に、新教材の内容及びその取扱い方にも十分触れるようにしたい。

昭和57年度から高等学校の必修科目として新設されることになっている「理科I」については、昨年に引き続き研修講座を開設し、具体的な学習場面を想定した内容を取り上げるように努めている。更に、研修員を中心に他領域との境界領域を考慮した「理科I」の年間指導計画の作成と具体的な展開例の検討に取り組み、その研修成果を集録にまとめて皆さんにお届けしたいと考えている。

### 魅力ある講座をめざして

#### 技 術 家 庭 研 究 室

本年度の実技研修講座は、3年計画の初年度に当り、新学習指導要領に対処すべく、内容に工夫がなされている。木材加工領域では合板を取り上げ、新しい題材の方向をめざしているし、電気領域ではプシュプル回路に関する実験・実習を行い、電気学習での取り扱いが容易になるよう配慮している。また食物では小麦粉の調理性を、被服ではスカートの縫製に関する実験・実習を取り上げ、いずれも学習指導が円滑に行えるよう工夫している。小学校家庭科及び高校家庭科に関する講座は、3年計画の2年次に当り、新学習指導要領に基づいた内容は、受講者の好評を博している。

技術・家庭科教材（希望講座）は、ふだんできない教材・教具等の製作をねらいとしたもので、本年度特に住居の講座を設け、男女共に受講できるようにしているので、多数参加していただきたい。

また、当研究室の事業として、県内各校の協力を得ながら、教材・教具等の資料集を刊行する予定で準備を進めている。

## 教育研究法委員会による活動と方針

昭和51年度から発足した教育研究法委員会は、教育課程の改善、学習指導要領の改訂に伴い、授業のいっそうの充実、指導力の向上が重要な課題であるという全県的な動向をは握し、授業研究の分野から「日常実践につながる授業分析」に焦点をしぼり、理論、実践の両面からの研究をし、「授業研究1」「授業研究2」を刊行し、学校現場や関係機関に提供し活用してもらっている。

さて、昭和55年度からは、3か年計画でこれまでの研究成果を土台にした「教育評価」の実践研究を望む声が現場から多くあったことから、教育センターの研究機関と学校現場との実践機関の協力によってその強い要請に沿う資料を提示したい。

研究の目的としては、児童・生徒の発達を正しくとらえる教育評価の意義、方法、結果の処理と活用について、実証的に研究をしたい。そして、この調査および研究が教師の学習評価法についての能力を向上に役立てたいと考えている。

#### 推進計画の概要

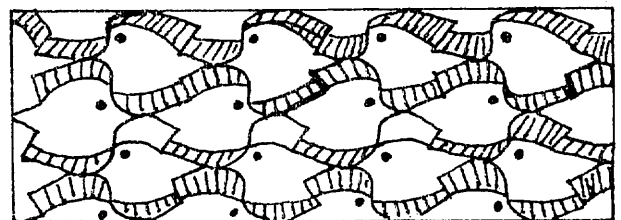
1年次 教育評価に関する文献、資料の調査

や研究協議により、その教育的意義を明らかにすると同時に、現行の評価法の実態と問題点を研究調査する。

2年次 評価の観点の検討と、観点到応じた評価法の具体例の作成と事例研究をする。

3年次 実証的な事例研究や研究のまとめをする。研究の成果の反省と今後の研究課題をまとめる。

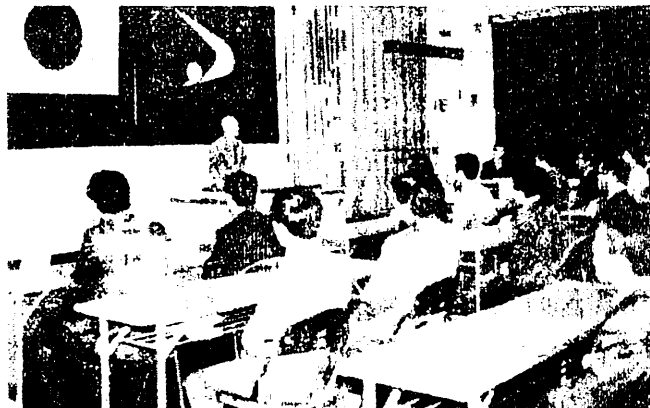
以上計画の概要であるが、年次に従い、学校現場からの要望等も考慮しながら軌道を修正し研究を進める。



## 昭和55年度研修員とテーマ紹介

本年度の研修員は、これまでと同じく、小・中学校から12名、県立学校から4名の計16名で、研修期間は5月1日から9月30日までの5か月間である。

研修員はこの期間中、所員と同じく勤務し、分担研修（指定された教科、領域に基づく研修課題による研修）を中心にして、共通研修（研修講座の受講



【研修員の入所式】

所外施設見学）等を行う。

研修員はこれまでに、研修テーマの検討がなされ、それぞれ決定したテーマに基づいた研修がなされている。この後、7月に研修経過の報告がなされ、9月には研修集録に載せる原稿の執筆に取りかかる。そしてその成果は、「研修集録第12集」

に集録される。研修員と研修テーマは次の通りである。

### 経営研究室

- 山内村立山内小学校 教諭 中嶋 重一  
学級目標実現を旨とする学級経営のあり方  
— 「朝の会」「帰りの会」での指導を通して —
- 男鹿市立五里合中学校 教諭 角崎 義正  
望ましい学級目標のあり方とその実践  
— 学級通信活動を生かした学級経営 —

### 教科研究室

- 本荘市立新山小学校 教諭 伊藤 良治  
小学校高学年の社会科学習における地域教材の活用
- 大館市立第一中学校 教諭 中田 稔  
説明的文章の学習における表現理解の関連指導
- 県立横手高等学校 教諭 田口 武俊  
数学Ⅰにおける「数と式」の指導について  
— 中・高の一貫性をふまえた指導を旨として —

### 教育相談研究室

- 湯沢市立須川小学校 教諭 石成 克雄  
小規模校における友人関係についての一考察
- 県立本荘養護学校 教諭 奥山美代子  
重度精神発達遅滞をともなった脳性小児マヒ児に関する事例的研究  
— 指導の手がかりと方法を求めて —

### 教育工学研究室

- 鹿角市立花輪第二中学校 教諭 鈴木 廣司  
「野外観察学習のシステム化」  
— 個々の生徒の驚きと喜びを生かした学習を

### 理科研究室

- 能代市立湊城第二小学校 教諭 保坂 矩夫  
小学校における化学教材の指導過程についての一考察  
— 燃焼を通して —
- 大曲市立大曲中学校 教諭 斎藤 隆子  
力学的エネルギー題材の指導法についての検討
- 本荘市立本荘北中学校 教諭 高橋 清  
本荘市北部における地質素材の教材化  
— 地層の広がりや堆積環境について —
- 県立角館高等学校 教諭 伊藤 一郎  
高等学校「理科Ⅰ」の指導について  
— 物理領域を中心として —
- 県立増田高等学校 教諭 後藤 鉄雄  
高等学校「理科Ⅰ」の指導について  
— 生物領域を中心として —

### 技術家庭研究室

- 秋田市立城東中学校 教諭 保坂 英世  
内燃機関の燃焼に関する教具の工夫
- 湯沢市立湯沢北中学校 教諭 福田 栄基  
自動制御回路の試作  
— シーケンス制御を中心に —
- 二ツ井町立二ツ井中学校 教諭 田村 勝  
野菜の調理に関する学習資料の作成  
— 保存と加熱を中心に —

## 県内教育研究機関協議会

## 54年度総会分科会から

## ○ 教育研究部会

県内14市町村に、それぞれの地域のセンターとして教育に関する調査、研究、研修等を通し、地域の教育向上を図るための教育研究所・教育センター・理科センターが設置されているが、協議会の教育研究所（含教育センター）部会は、11市町村に及んでいる。

本年度の総会は、4月25日、県教育センターで開催され、教育研究所部会の本年度の事業計画が、熱心に検討された。次にその主な点を述べてみる。

部会では、昨年から「教育研究所・センターだより」を発刊し2号まで出されたが、本年度も続刊し、各研究機関の連携を深める情報の一手段とする事にした一方、各研究所の地域を中心にした地域研修も、6月には森吉町、10月には協和町をそれぞれ会場として実施し、地域の相互理解を深める事になった。また、6月の森吉町を会場とした地域研修では、本年度の共同研究の方向も打ち出される予定になっており、各地区研究所の特性を發揮しながら、秋田県教育センターの研究・研修事業と併せ、県下の教育向上に、今年度も躍動する年となりそうである。

## 随 時 研 修

## 概 況

教育センターでは、地域の研究団体や学校の自主的研修の充実を図るため随時研修を受入れている。

昭和54年度は、10団体により13件の研修が行われ、延日数20日、延人数594名で、内容は次のようである。  
○生徒理解と生徒指導（大曲市教育研究所・南秋研究会）  
○教育工学的学習指導法（大館・田代・比内各教委、大館城西小）  
○学習指導要領（中央教育事務所）  
○特別教育活動（県特活研究会）  
○教科別（秋田市小・県高校各家庭科研究会、南秋技家研究会）

## 教育工学研究室

教育工学研究室に対する随時研修の申込みは、年々増加の一手であり、非常に喜ばしい事である。中でも大館市、比内町、田代町三地教委主催の二泊三日合同研修会は、昭和53年度から（大館市は48年度から、田代合同は52年度）継続されている特異な広域随研である。研修内容は、学習者主体の目標分析から学習指導プログラム作成と、それに伴うソフトウェアの制作が多く、今後は教育現場の動きから見て、教育機器の操作研修などが加わるのではないかと予想される。

## ○ 理科教育センター部会

本協議会理科教育センター部会は8機関（鹿角市・鷹巣町・男鹿市・本荘市・大曲市・横手市・湯沢市・県教育センター）で構成されている。

4月25日の部会では各機関の本年度事業が話し合われたが、その中には、教師対象の理科研修会、野外観察研修会、教材製作研修会、児童・生徒対象の理科教室、天体観測会などの外に移動理科教室やお母さんの理科教室などユニークな研修が紹介され注目された。

このように、各機関の研修事業がそれぞれの地域において、教師の現職教育から児童・生徒の理科学習や地域住民の生涯教育に至るまで幅広く浸透し、成果を上げていることを知り心強く思った。

6月24日に行われる第2回目の部会では、中学校の天文教材と小学校高学年理科での製作活動について研修会をもち、その成果を各地区の研修事業に還元していきたいと考えている。

今後とも、地区の機関の専任の先生方と協力しながら内容の充実した研修事業ができるように努力したいと考えているので、御協力方をお願いしたい。

## 昭和54年度

## 教育相談研究室

二つの研修を担当しました。

1. 大曲市立教育研究所主催で、8月9日、2時間、「カウンセリング」について

大曲市内の小・中学校の先生がた、26人参加。

2. 秋田県教育研究会南秋支会生徒指導研修、10月23日、2時間、「当面する生徒指導上の諸問題」について、支会の先生がた、30人参加。

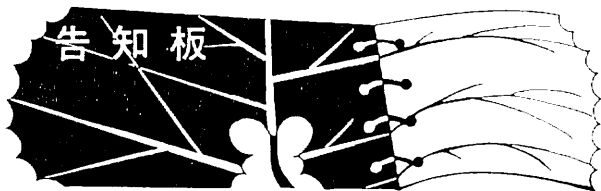
最近、このように自主的に行う研修会が多くなってきたように思う。

## 技術家庭研究室

1. 秋田市小学校家庭科研修会、1月7～8日、25名参加。55年度より完全実施の新指導要領に基づく年間学習指導計画の作成と検討及び被服題材の資料製作。宿泊をして意見交換や資料作りと熱心な研修であった。

2. 南秋地区中学校技術・家庭科研修会、1月14日、23名参加、電気領域、井川中、石井教諭の当センターにおける研修内容をもとにした実験・実習の研修。

3. 高校家庭科技術検定研修会、被服、食物の実技評価、特に食物は鷹巣高校生徒実演を含めた研修を行った。



研修員を迎えたセンターの陣容



「特殊教育センターの設置決まる」

心身障害児教育の中心的な指導機関の役割を果たす「特殊教育センター」が、全国各県で次々誕生していますが、本県も設置が本決まりとなり、近く県教育センター内に建設される運びとなりました。

事業の内容は、障害児の判別、就学指導教育相談、特殊教育に関する教職員研修、特殊教育に関する研究・資料収集、等です。

それらの事業を行ううえに必要な施設・設備として検査室・相談室をはじめ、子供の実態を科学的に観察できる観察室やプレールーム、心理治療室、観察室と直結するTVシステムを持つ研修室などが計画されています。

開所は来年度初頭の見込みですが、各方面から大きな期待が寄せられています。

人事異動

所 員			
〈転任〉			
総務課長	中村 正二	金足農高事務長へ	
主査兼管理係長	伊藤 茂雄	県立図書館主査兼庶務係長へ	
教育研究部長	小松順之助	由利高校長へ	
経営研究室長	長崎五十武	義務教育課指導主事へ	
指導主事	進藤 史生	文化課学芸主事へ	
〃	金田 文昭	高校教育課指導主事へ	
〃	藤森 健司	秋田西高校教諭へ	
〃	藤田 幸雄	秋田北高校教諭へ	
〃	本郷 敏夫	秋田西高校教諭へ	
〈新任〉			
管理係長	高橋 康脩	生涯教育推進本部事務局から	
指導主事	森谷 裕二	秋大附属中教諭から	
〃	近藤 繁	秋田南高教諭から	
〃	松田 至弘	横手高教諭から	
〃	伊藤 吉雄	秋田高教諭から	
〃	藤村 政俊	秋田養護学校教諭から	
〃	藤井 信	横手高教諭から	
〃	松山 剛	大館市桂城小教諭から	
〃	高橋 幸臣	本荘高教諭から	
〃	推名 政光	由利工高教諭から	
〃	佐藤 正男	金足農高教諭から	
〃	夏井 三夫	秋田工高教諭から	
〃	藤原 裕之	〃	
〃	林 護一	〃	
主 任	松本 勝也	西目農高主事から	

〈所内〉

総務課長	宮原 茂	総務課長補佐から
教育研究部長	向山 清	教育相談研究室長から
経営研究室長	鈴木 樹	指導主事から
教育相談研究室長	木村 志義	〃

研究員

〈転出〉

教科研究室	成田 哲也	井川中教諭へ
教育相談研究室	三浦 雅絵	秋田養護栗田分教諭へ
教育工学研究室	田村己代治	四ツ屋小教頭へ
〃	熊谷 直紀	淀川小教諭へ
理科研究室	工藤 宣一	土崎中教諭へ

〈転入〉

教育相談研究室	木村ひな子	南養護学校教諭から
教育工学研究室	加藤 尚	大曲中教諭から
〃	斎藤 善博	山王中教諭から
理科研究室	工藤 英美	岩館小教諭から

----- 編集後期 -----

教育現場との密接な連帯のもとに教育センターも10年目を迎え一層活気にみちています。本年度の抱負と事業の計画をのせた第25号をお送りします。

教育センターだより 第25号

発行年月日 昭和55年6月20日  
 編集責任者 秋田県教育センター  
 秋田市仁井田緑町4番2号